

テレビ・ラジオ

8月の日本系「NNNDキュメント'26」
(日、深夜0・55)を紹介します。戦争と平和、とりわけ被爆者と核兵器を考える番組に要注目です。タイトルは全て「仮」。

8月のNNNDキュメント'26

■「負の遺産」原爆ドーム 2日
今年、世界遺産登録から30年を迎える「原爆ドーム」。解体を望む声も上がる中、永久保存のきつかけとなったのは白血病で亡くなった16歳の少女の日記でした。トラウマを呼び起こす「負の遺産」が持つ意味とは。広島テレビ。

■被爆者がいなくなる日 9日
1945年8月9日の原爆投下から81年。平均年齢86歳を超える被爆者の体験は「記憶」として語られ、若い世代に伝えられてきました。元高校生平和大使だった男性(34)は今も、平和教育に取り組んでいます。長崎国際テレビ。

■令和世代の国防最前線 16日
ロシアのウクライナ侵攻、アメリカのイラン攻撃など「戦争」がかつてないほど身近な中、自衛隊を肯定的に見る若者が増えています。国防の最前線に立つ若者たちは、何を思っているのでしょうか。

戦争と平和 被爆者を考える

■7人の愛する子どもたちへ 23日
2006年8月25日、福岡市の海の中道大橋。家族5人を垂せた車が飲酒運転の車に追突され海に転落。幼い子も3人の命が奪われました。裁判に区切りがつき、沈黙を貫いてきた母が、ついに語り始めた。福岡放送。

■81年目の夏 30日
青森に住む福井現代(96、故)は、送時は、広島と長崎で被爆した「二重被爆者」。長年、口をき閉ざしてきましたが、弟が書き残した被爆体験記で「二重被爆を認定され、少しずつ体験を語り始めました。青森放送」。

「原爆ドーム」が持つ意味とは 8月2日 深夜放送